令和元年度　小山地区まちづくりを考える懇談会結果報告

１　日　　時　令和２年２月６日（木）午後７時から午後８時３８分まで
２　場　　所　小山公民館大会議室
３　市側出席者　本村市長、森副市長、藤田中央区長、石井企画財政局理事、鈴木渉外部長、
山口広域交流拠点推進部長、鈴木中央区副区長
樋口市民局長、高梨市民局次長
４　出席委員等　２１人
５　傍　聴　者　１３人
６　懇談会の要旨

テーマ１	相模総合補給廠一部返還地等の計画と相模原駅周辺のまちづくりについて
概要	相模総合補給廠の共同使用区域のスポーツ・レクリエーションゾーンの工事は着工しているが、一部返還地については「一度立ち止まって見直す」とされている。相模総合補給廠の一部返還地の開発について、アンケートの実施や署名活動等の動きがある中、どのように地区の意見を聞くのか及び全面返還に関する市長の基本的方針・考え方をお聞きし、懇談したい。 また、一部返還地の利用を考える上では、南北道路を夢大通りへ接続することなどによる駅南北の一体的な利用も重要である。広域交流拠点としての相模原駅周辺のまちづくりとともに地域住民にとっても未来に希望が持てるようなまちづくりを目指した懇談会としたい。
地区の取組状況等	小山地区は、相模総合補給廠に隣接する地区として、一部返還決定前より行政等と協力して返還促進活動を行ってきた。一部返還に向けて、地域住民で組織した「住みよい小山をつくる会」で一部返還後の土地利用について検討を重ね、平成19年3月に市へ「相模総合補給廠一部返還に伴う跡地利用に関する意見書」を提出するなど、長年、小山地区はこの問題に取り組み、相模原市への意見や具申を行ってきた。 一部返還地の利用についても、関係する相模原駅周辺のまちづくりにあわせ、数年に亘り、まちづくり懇談会のテーマとして取り上げている。 昨年度取りまとめた「次期総合計画・都市計画マスタープラン　小山地区まちづくり報告書」においても、地区の重点項目として提言している。
市の取組状況等	本市では、これまで、市民、市議会、行政が一体となり、基地の全面返還を基本姿勢に、市内米軍基地に起因する諸問題の解決に取り組んでいる。 １１月には、市米軍基地返還促進等市民協議会とともに米軍、防衛省、外務省へ米軍基地の全面返還等に向けた要請を実施した。 また、補給廠周辺のヘリコプターの騒音については市民から多く声が寄せられているため、平成３１年２月に市営相模原駅自動車駐車場に騒音記録計を設置し観測を行っており、測定データを基に改善を求めている。 引き続き、基地を取り巻く情勢を的確に把握し、また、本市のまちづくりの将来像を見据えながら、さらなる返還の実現に向け、市米軍基地返還促進等市民協議会とともに、粘り強く取り組んでまいりたいと考えている。 （総務局）

	一部返還地１５ｈａのまちづくりは、平成２８年８月に策定した市広域交流拠点整備計画に基づき、国際コンベンション施設の導入やＪＲ横浜線の連続立体交差化、行政機能の再編等の実現に向けた調査・検討を行ってきた。 しかしながら、平成３０年６月に公表した調査結果においては、コンベンション施設は、国際会議が出来る大型の施設の需要はあまり見込めないことや、近隣に類似施設が建設されてきたこと、また、連続立体交差化事業は、補給廠が全面返還されることで、その効果が最大化することから、長期的な視点で検討していく必要があること等、社会情勢の変化や各種調査・検討における課題もあり、具体的な導入施設の決定に至らなかった。 こうしたことから、駅南口に掲出していたイメージ図などについては、未確定な情報があったため昨年７月に撤去させていただいたもので、改めて駅周辺に求められる役割や将来像を検討し、市民の皆様の御意見も踏まえながらまちづくりの計画を見直すこととした。現在、市民アンケート等を実施し、一部返還地のまちづくりコンセプト案の策定を行っているところである。 一部返還地は、隣接する橋本駅にリニア中央新幹線の新駅が設置されることや、小田急多摩線の延伸、補給廠全面返還の可能性、市内及び多摩地域に数多く立地する大学や研究機関との連携強化の可能性等、他の地域にはない特性や高いポテンシャルを有しているものと認識している。 こうしたことから、本市が首都圏南西部における広域交流拠点として更に発展していくためにはこれらの特性やポテンシャルを生かしたまちづくりが重要であり、５０年・１００年先、そして、補給廠の全面返還も見据え、本市の核となるような、にぎわいと活力のある、持続可能なまちづくりを進めてまいりたいと考えている。 具体的な検討状況であるが、昨年、市民アンケートや街頭アンケート等を実施し、相模原駅周辺の現状評価や将来イメージ、まちづくりに対する考え方などを伺った。アンケート結果からは、「相模原駅周辺は、官公庁や銀行、病院など生活利便施設が充実し、住みたいまちとの評価がある一方、広域から人を呼び込む魅力に欠けている」というようなことが見えてきており、このような御意見も策定中のコンセプト案に反映していきたいと考えている。 また、一部返還地のまちづくりにおいて、駅南北の連携強化は重要であると認識していることから、南北一体化に資する方策等は、今後、土地利用と併せて検討してまいりたい。 なお、昨年度相模原踏切の改良について調査・検討を行ったが、踏切の開放による他の路線からの車両流入による交通量の増加から交通事故の危険性及び交通渋滞の発生等、周辺への多大な影響が想定されることから、相模原踏切を改良し、南北道路と接続することは極めて困難な状況であるとの結果に至った。 しかしながら、踏切等を活用した南北一体化に資する様々な方策について、例えば一部規制を設けての接続などによる通行の可能性を模索しながら、今後研究するとともに、南北道路を延伸させ駅前広場への接続による利便性の向上なども合わせて研究してまいりたいと考えている。 一部返還地のまちづくりについては、本年度、コンセプト案の取りまとめを行い、次年度以降、市民の皆様の御意見も踏まえながら、土地利用方針、土地利用

	計画の策定を予定している。 　その後、その土地利用計画に基づき、令和４年度を目標に国有財産審議会へ諮っていきたいと考えており、まちづくりに向けた取組を進めてまいりたい。 （都市建設局）

懇談内容	
地区の発言	相模原駅周辺の拠点整備計画の策定時点では首都圏南西部の拠点として、橋本駅周辺の計画策定と一体で進めてきた経過があるが、その中で解決できていない問題があった。１点目は、中間点の利用をどうするか、２点目はリニア中央新幹線と小田急多摩線とが完成した場合の、橋本～相模原間のアクセス方法である。リニアを利用する近隣首都圏の方で、小田急線で相模原駅に来たお客さんはリニアにどうやって乗るか、ということも課題として出されていた。 　今後計画を実行していくならば、やはり同じように一体化した組織が必要だと思うが、以前あった会議体は、現在はどのような状況か。 　首都圏南西部の拠点として、両地域の情報共有が必要なので、そういう意味で推進してほしい。
市の発言	橋本と相模原を合わせた形の市広域交流拠点整備計画が平成２８年８月にできたが、一部返還地１５haについて現在は市の定めたコンセプトはなく、市役所周辺を含めた相模原駅周辺地区６６０haのコンセプトを踏襲している。１５haのまちづくりの進め方としては、今後、アンケートやさがみはらフェスタで実施したオープンハウスなどで集めた意見を基にコンセプト案を作っていく。令和２年度は市民参加型の会議体を設け、橋本・相模原それぞれの機能の棲み分けと連携を考え、双方が競合せず発展していくように取り組んでいく。 　橋本については整備計画の方針どおりそのまま進めているが、相模原については導入施設等の検討をした結果、想定に合致してこなかった経過があり、改めて見直しを行う。相模原の高いポテンシャルを生かせるようこれから計画し、橋本の計画とすり合わせていく。 　整備計画を策定した時点で当時の検討組織は終了しているが、検討委員会には地元の方に入って頂いていた。令和２年度からの会議体についても、現在の推進協議会もあり、こうした方々の意見も十分に伺ってまいりたいと考えており、また新たにメンバーを構成し検討していく。 （都市建設局）
地区の発言	南北道路と夢大通りとの接続について、多くの課題があるとの説明があったが、今後は全く行わないということなのか。
市の発言	検証した結果、現在の状況、構造のまま開通させると交通量が増加し、非常に問題があることが分かった。車が集中しなければ事故を防げるということで、一方通行や時間制限などの方法について神奈川県警やＪＲ東日本などの関係機関と協議して、様々な方策について模索していく。 （都市建設局）
地区の発言	踏切の改良は、やはりまちの発展のために必要であると考える。接続に向けて様々な検討を前向きに続けて欲しい。

市の発言	想定される影響としてバスへの影響がある。今使っている方が不便にならないか確認しなければならない。方策について改めて検討し、南北のにぎわいの中心となるよう、様々な機関と協議していく。 （都市建設局）
地区の発言	宮上横山線、宮下横山台線の整備についてはどのような状況か。国道 16 号線からまっすぐ町田街道に接続できるようにしなければならない。今現在宮上横山線を通行する車は交通量も多い上に大型車が多く、これに南北道路を通らせるのは難しい。
市の発言	宮下横山台線については、平成３０年６月に都市計画決定がされており、南多摩尾根幹線から国道１６号線につながる重要なルートと認識している。境川を渡る部分について東京都との協議も進めながら、取り組んでいる。 宮上横山線については本年度末で用地の取得が約９３％と認識している。令和４年度の完成を目標としている。縦に抜けていく道路が完成することで、多くの方が相模原に訪れるための基盤となると考えている。 （都市建設局）
地区の発言	南北道路と夢大通りを接続させるために、バスターミナルを移設するか地下化してはどうか。どちらかに踏み切らなければ解決しない問題である。
市の発言	現状では踏切から交差点までの距離が非常に近く、クランクして夢大通りに接続する構造になっていることや、バスターミナルもあることから、一般車の流入が増加することは厳しい。本来であれば大規模な立体交差化によって南北の自由な行き来ができる形が望ましい。現在の踏切からの接続について検討を重ね、どうしても難しいという事であれば立体交差化についても検討する。 （都市建設局）
地区の発言	ヘリコプターの騒音の問題について、宮下本町２丁目周辺をヘリコプターが夜８時９時頃にぐるぐる旋回し、住民は悩まされている状況なので、対応をお願いしたい。我々地元は米軍と友好関係を築いているが、この状態が続くようでは友好関係を維持していくことも難しくなってしまう。
市の発言	この２～３年、ヘリコプターの旋回・着陸訓練による住民からの苦情が相模総合補給廠周辺でも多くなり、キャンプ座間に匹敵する騒音回数がデータ上でも見られている。市民の方からのご意見を米軍、防衛省に対して要請しているが、なかなか対応いただけているようには感じられない。詳細は教えていただけないが、昨今の米軍を取り巻く国際的な状況の変化が影響していると推察される。市としては、特に学校行事への影響や休日・夜間の飛行自粛等の配慮に関して引き続き要請していく。 （総務局）
地区の発言	騒音計が計測される基準はどのくらいなのか。
市の発言	通常少しうるさいと感じる音の大きさである６５デシベル以上の騒音が５秒以上継続するとカウントされる仕組みとなっている。６０デシベルが一般的な事務所、７０デシベルが電話機の音程度である。飛んでくる方向から、キャンプ座間、横田基地などから飛来していると推察している。平成３１年２月から集計を開始したため年間データは出ていないが、月に１００～２００回カウントされており、１日で２０回以上もカウントされる日もある。どのような訓練がされるか

	予定についても教えていただけない。防衛省経由で米軍には飛行自粛を要請しているが、なかなか減らない状況である。 （総務局）
地区の発言	市役所の移転について、政令指定都市になったので、交通のより良い場所に行政機能があった方が良いのではないかと考える。 例えば東京都文京区の区役所は２５階建てであり、川崎市の宮前区役所などにも複合施設建設の流れがある。ぜひ小山地区の一等地に市役所を移転してほしい。 また、昨年の台風の際、向陽小学校に避難者が入りきらなかったということもある。共同使用区域を返還までこぎつけ、そこに公立中学校を設けて頂ければ、地域のコミュニティ形成にもつながり、避難場所の確保にもつながると考える。
地区の発言	共同使用区域のスポーツゾーンの中を芝生広場にすると伺っているが、工事が止まっているように見える。工事の進捗状況はどうなっているか。
市の発言	共同使用区域のスポーツ・レクリエーションゾーンについては、中央の芝生広場を令和２年度中の供用開始予定としており、管理棟まで含めた軟式野球場については令和６年度の完成を目指している。昨年９月の補正予算で予算化されており、一部については今年の秋に供用開始できるように進めている。 （都市建設局）
地区の発言	アンケート結果で、「相模原駅周辺は、官公庁や銀行、病院など生活利便施設が充実し、住みたいまちと評価がある一方、広域から人を呼び込む魅力に欠けている」と示されていたが、市長としては何が足りないと考えているか教えて欲しい。

市長の感想等	相模原踏切の改良については、様々な課題があり、かなりの時間がかかる。駅に近い踏切で遮断時間が長いこと、また、国道１６号線、町田街道などと宮上横山線、宮下横山台線などとの縦軸の関係もある。自動車流入量についても、全体への影響を見なければならない。まず何ができるかを多面的に検討するが、課題が多いということについてはご承知頂きたい。 一部返還地のまちづくりについては、今立ち止まっているのではなく、これからできることを皆さんと一緒にどう考えていくか、新たなスタートへ舵を切りだしたところである。未来志向のまちづくりに向けて、橋本との一体化を含めて、連携性を高めていけるよう検討していく。 （副市長）
	相模原駅南口に掲出していたイメージ図について、この図には「イメージ図」と書かれていたが、コンベンションホール、あるいは市役所、ＪＲの立体化などが含まれていて、このまちの絵ができると思っている方がまだ相当多くいらっしゃる。それから小田急多摩線についても、上溝駅まで延伸してくると思っていらっしゃる方が多い。 私は選挙後一番に小田急電鉄の社長や国土交通省の鉄道局長に会いに行った。小田急多摩線の延伸については、多くの市民の方も期待されており、実現しなければならないと思っている。国会議員時代に４度国会で質問をしており、私も推進の立場である。

	しかし、平成２８年４月から２年半行われた有識者や国土交通省、小田急電鉄、神奈川県、東京都、町田市や多摩市などとの小田急多摩線関係者会議で、唐木田駅から上溝駅までの一括整備は困難である、段階的にまず相模原駅まで整備するのが妥当であるとの見解が出た。 段階的整備についても昼間人口２万人増、夜間人口３，０００人増という前提のもと試算しているが、これも確定ではない。 小田急電鉄の社長と会った際には、小田急多摩線を上溝駅まで延伸しないとは言ってないが、補給廠のまちづくりがはっきり示されないと難しいと話されていた。現在の路線を維持した中で、新しい利用者が小田急多摩線に乗車するなどプラスの要素がなければ、民間企業としては厳しいとのお話だった。 夢を語るのも必要だが、これからはしっかりと事実を話すべきだと思っている。このまちができて小田急線が来ることを皆さん楽しみにされているが、これは決定事項ではない。 これから橋本を含めた相模原のまちづくりを行っていく。私が市長に就任したときに橋本は既に２年半以上の遅れが生じていて、厳しい状況だった。鉄道各社、国や県との厳しい折衝があって、昨年の暮れにようやくテーブルに乗せられる段階まできたのが事実である。そのなかで、橋本と相模原が一体になったまちづくりを進めていきたいと考えている。 今年度、様々な方にアンケートやオープンハウスを実施して、ＳＮＳだけでは取れない声を拾うために、幅広い年齢層を対象に対話を始めた。 アンケート調査結果では、「相模原には病院や銀行があるが、多くの人が集う魅力あるまちづくりがまだ進んでいない」というのが市民の皆さんが感じていることとあったが、これからまっさらなキャンバスの中で、皆さんと対話をし、一緒に新しいまちづくりの絵を描いていく。 橋本も厳しい中で、令和９年度にリニア中央新幹線の新駅が完成する。その中で区画整理事業もまちづくりも行わなければならない。橋本のまちづくりは恐らく 20 年 30 年かかるかもしれない。相模原も同じようにこれから 10 年 20 年かけて次の世代に繋げていくきっかけを作っていきたいと考えている。 南北道路と夢大通りの接続については、庁内では様々な研究を行ってきた。その結果、南北道路から夢大通りへの接続は難しいとの結論で、一度は担当部局から諦めて下さいとの説明もあったが、これは小山地区や清新地区からも期待をされ、議会からも指摘されていることなので諦める訳にはいかないと、差し戻した。それで今一度検討し直している。非常に困難が多いが、諦めずにＪＲ東日本や神奈川県警とも協議を進め、例えば一方通行を設定するなど、さまざまな方法を検討し直している。 共同使用区域については、今年度補正予算で５億４千万円の予算を付け、芝生広場と遊具を整備し、令和２年秋に開所式を行う予定である。令和６年度には野球場を整備したいと考えている。 南多摩尾根幹線から宮下横山台線については非常に大事な路線だと考えている。令和９年度供用開始を目標に進めているが、東京都との調整など課題も多い。ニュータウン幹線から宮上横山線については用地取得率が約９３％であり、令和４年度供用開始予定である。

	南北道路から夢大通りに接続する際のクランクや、市道すすきの氷川線から県道相模原立川線に入るクランクについても非常に課題だと考えている。 また、ヘリコプターの騒音の解決や、基地の全面返還についてはしっかりと進めていきたい。全面返還の可能性については、加山前市長も話されていた。市米軍基地返還促進等市民協議会のメンバーとして安藤会長にも同行して頂いたが、米軍や防衛省にも返還を要請している。米軍による第38防空砲兵旅団司令部の説明等の現地視察については、現在、防衛省・米軍と日程調整中であり、基地機能強化につながらないよう取り組んでいく。 市役所の移転については、これも６０年間のトータルコストで約１，６００億円から１，７００億円かかるとの試算がある。行財政構造改革も行いながら、地域の声を聞いていきたい。 相模原駅周辺まちづくり推進連絡協議会との意見交換については、令和元年東日本台風の影響で延期になっているため、今後行ってまいりたい。是非皆さんにまちづくりに参加してほしい。教職員含め８，０００人の職員とワンチームとなって取り組んでいく。ワクワクする相模原、訪れたいまち相模原、そういうまちづくりを対話しながら進めていきたい。 （市長）